

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900224		
法人名	株式会社 萌花		
事業所名	萌花甲子園		
所在地	西宮市甲子園六番頭14-25		
自己評価作成日	令和5年4月4日	評価結果市町村受理日	令和5年6月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和5年5月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護職員全員が介護福祉士資格を取得しています。職員の定着率。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅から近く、近隣にスーパーや公園があり生活に便利な環境である。今年度から、散歩・花見・外出行事、家族との外出を徐々に再開している。毎日の手作り「日替わりランチ」、毎月の行事と行事に因んだ行事食やおやつ、日課としての体操やレクリエーション等、利用者が日常生活の中で楽しめるよう取り組んでいる。職員全員が介護福祉士の資格を持ち、全体会議と研修を職員全員参加で毎月実施し、専門性の高いケアの実践につなげている。働きやすい職場環境づくりに努め、職員の定着が良く運営が安定している。1階に母体の医療機関があり、訪問診療・随時の受診など医療連携体制が整備されている。毎月の「萌花だより」「担当職員・管理者だより」の郵送、定期的な家族アンケートの実施等、家族との連携にも努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に理念について研修を行い、年間の研修予定に組み込んで職員の共有を図っています。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念・基本方針をつくり、理念を玄関とスタッフルームに掲示し、パンフレットや「萌花だより」にも掲載し、職員・家族に共有を図っている。入職時の研修で説明するとともに、年間研修計画に入れて毎年研修を実施し、理解を深め振り返る機会を設け実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域交流が出来ずにいましたが、今年の春からは、自治会主催の花見の参加や、中学生のトライやるの受け入れをしています。	コロナ禍で地域への外出・地域交流を休止していたが、自治会への加入、地域からの相談対応は継続している。今年度は、自治会主催の花見会への参加、地域への外出の再開等、徐々に地域交流を再開し、中学生のトライやるウィークの受け入れの再開も予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生トライやるの受け入れ、地域の方からの相談を受けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一昨年からコロナの影響で、文面だけの会議になっており、活発な意見交換が出来ていない。5月から開催していきます。	コロナ禍以前は、家族代表・地域代表(民生委員)・市の権利擁護支援員・知見者(他事業所管理者)・管理者を構成委員として、2ヶ月に1回開催し、共用空間で開催し利用者との交流もあった。令和2年度から書面開催とし、「報告書」を構成委員に郵送し、利用者状況や行事等の事業所の取り組み等を報告している。返信用紙を同封し、構成委員からの意見や情報の収集に努めている。今年度5月から、集合開催を予定している。議事録ファイルを玄関に設置して公開していたが、現在は、利用者事情により撤去している。	

萌花甲子園

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人指導課とは、必要時にメールや電話で連絡を取り合っています。	運営推進会議に市の権利擁護支援員の参加があり、連携を図っている。不明な点や相談等があれば、内容に応じて市の法人指導課や保健所に主に電話で問い合わせを行い、回答や助言を運営や感染症対策に反映している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成している。年間の研修予定に組み込んで、職員に徹底している。3カ月に1回、会議で現状の確認を行っています。	「身体拘束廃止マニュアル」「身体拘束廃止指針」を整備し、身体拘束を行わないケアを実践している。年間研修計画をもとに、全体会議の中で「身体拘束の定義と廃止・虐待防止」研修を実施している。全体会議は職員全員参加を基本とし、参加できなかった職員は資料の閲覧により周知を図っている。階段があるため玄関は施錠しているが、外出の希望があれば、外気浴や散歩により閉塞感を感じないよう支援している。	全体会議の中で、随時、拘束事例がない事の確認と適正化に向けた検討を行っているが、3ヶ月に1回以上は、「身体拘束適性化委員会」として議事録への記載を行うことが望まれます。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成している。年間の研修予定に組み込んで、職員に徹底しています。	「高齢者虐待防止マニュアル」を整備し、上記と同様に、年間研修計画をもとに全体会議の中で研修を実施している。気になる言葉かけや対応等があれば、管理者が注意喚起や助言を行い、不適切ケアの未然防止に努めている。相談しやすく協力し合える関係作りに努め、有休の取得や賃金の向上、勤務時間の短縮など職員が働きやすい職場環境の整備に努め、職員のストレスや疲労がケアに影響しないように配慮している。		
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議に権利擁護の委員が参加しており会議で提案された内容等は、月1回の職員会議の議案として提出することもあり、職員への周知を図っています。	年間研修計画をもとに「後見制度とは」研修を実施し、権利擁護に関する制度の理解に努めている。制度利用の事例はないが、制度利用の必要性や相談があれば対応できるよう取り組んでいる。		

萌花甲子園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明には2時間程度の時間をかけて利用者家族の納得を得るように心掛けている。疑問等がある場合にはその都度、説明して理解を得るようにしています。	入居相談や入居希望があれば見学対応し、パンフレットや料金表をもとに説明している。契約時には「契約書類一式ファイル」に沿って、契約書・重要事項説明書・リスク説明・規定・同意書等の内容を説明し、文書で同意を得ている。時間をかけて丁寧に説明し、疑問や不安の解消に努めている。契約内容の改定時には、「改定のお知らせ」を郵送して説明し、文書で同意を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族対応の窓口を管理者にしているが、他職員も家族の来所時には声掛けを心掛け、意見等があれば、管理者に報告し運営に反映させています。	面会時、電話連絡時に近況を伝え、毎月「萌花だより」(写真掲載)と個別の「おたより」(利用者担当職員だより・管理者だより)を郵送し、家族の意見・要望の把握に努めている。家族対応の窓口を管理者とし、職員が聞いた内容も管理者に報告し、統一した対応ができるよう取り組んでいる。「介護計画」の見直し時に「家族アンケート」を郵送し、家族の意向や要望を返信してもらい、計画内容や支援に反映している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員全員が参加する全体会議を設け、意見や提案を行っています。	月に1回「全体会議」を開催し、利用者のケア・行事・業務等について検討している。職員全員出席を基本とし、会議の前に職員から議題を収集し、職員の意見・提案を反映できるよう取り組んでいる。参加できなかった職員は議事録を閲覧し共有を図っている。日々の検討事項は管理者が集約し、検討結果を「日誌」の連絡事項等で共有し実践につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有休の取得や賃金の向上、勤務時間の短縮など職員が働きやすい職場環境の整備に努めています。		

萌花甲子園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の会議で、情報の把握に努め、介護の質の向上を心掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西宮市グループホーム連絡会や市開催のイベントなどを通じて同業者との交流を図っていたが、コロナの影響で機会がなかったです。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔で対応する、穏やかに話す、話を傾聴するなど心掛け、安心して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に十分に話を聞く時間を設け、不安や要望の把握に努め、安心・納得して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービス、経済的な事も含め十分に話し合い、場合により他のサービスを提案することもあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは自分でして頂く、ご本人を尊重した声掛けや挨拶をする。又、お手伝いをして頂いた時にはお礼を言うなど日常の会話を大切にしています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護は職員が担うが、心理面での支えは家族にお願いしている。また、散歩等のマンツーマンのケアは職員では時間的に難しいため、家族にお願いしています。		

萌花甲子園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域からの入居者が多く、知人や友人等の面会もある。行き慣れたスーパーへ買い物に行かれる事も多く最近までコロナの影響で面会や外出を制限していたが、少しずつ機会を増やしていく計画です。	地域からの入居が多く、家族・友人・知人の来訪・面会を再開し、馴染みの人との関係が継続ができるよう支援している。近隣のスーパーや公園に馴染みがある利用者もあり、家族の協力で散歩・買い物・喫茶に出かけたり、事業所としても散歩や花見会への外出を再開し、馴染みの場所との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂で入居者同士の会話があり、職員を交えてゲームをするなど利用者同士の関わりを支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に電話で相談される事もあり、退所された後も気軽に連絡して頂けるように伝えていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	6月に1回、本人・家族の要望を聞き、サービス計画を見直し職員の情報共有にも努めている。意思が確認しにくい利用者には全体会議で職員の意見を聞き計画の見直しを行っています。	利用者の思いや暮らし方の希望、意向について、日々の会話や介護計画見直しの際の聴き取りから把握に努め、支援や介護計画に反映できるよう取り組んでいる。把握が困難な場合は、職員が表情や反応から汲み取り、全体会議で共有・検討しながら把握に努めている。	入居時や入居後に把握した、利用者個々のバックグラウンド・生活歴・生活習慣・趣味嗜好等を記録し、新しい情報を追記し、利用者の人物像の把握や個別支援に活用できる書式を作成されてはどうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集に努め、出来るだけ今までの暮らしが継続できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能を生かせるように支援しています。		

萌花甲子園

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)		<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族とは入所前、面会時に意見を聞くようにしている。計画作成担当者を中心に本人の状況に併せてケアプランを見直し職員への周知を図っています。</p>	<p>「フェースシート」「アセスメントシート」をもとに、初回の介護計画を作成している。入居後の職員の気づきを利用者個々の「説明書」に記録し、初回は3か月後に介護計画の見直しを行っている。検討事項があれば全体会議で検討し、「アセスメントシート」で毎月再アセスメントを実施し、必要時は随時、定期的には6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。介護計画見直しの際は家族にアンケートを郵送して意向を聴き、「モニタリング」で評価を行い、「モニタリング」・「アセスメントシート」・全体会議での意見交換・必要時には主治医の意見も反映している。最新の「介護計画書」「アセスメントシート」を綴じたファイルをスタッフルームに設置し、職員に周知を図っている。日々のサービス状況は、電子カルテの「介護記録」・各種「チェック表」に記録している。</p>	<p>計画に沿った実施が明確になる記録の工夫が望めます。 全体会議の中での介護計画見直しに向けた検討を明確にし、サービス担当者会議として「居宅介護支援経過記録」等に記録を残してはどうか。</p>
27			<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の様子を電子カルテに記録し、情報の共有を図っている。問題がある場合には、全体会議でケースカンファレンスをして介護の統一を図っています。</p>	/	
28			<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>管理者が必要と判断した場合は、家族からの要望や本人の希望を聞いて、他のサービスや、集い場などを紹介しています。</p>	/	
29			<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>家族の協力を得ながら外出支援、自治会行事への参加、トライやるの受け入れなど地域との関りが持てるように努めています。</p>	/	

萌花甲子園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調が悪い時など、家族と連絡を取り合って階下の岡田クリニックを受診している。必要があれば、他の病院へ搬送しています。	契約時に利用者・家族の意向を確認している。同一建物内の医療機関(外科・整形外科・内科・心療内科)から2週間に1回訪問診療を受けられる体制があり、必要時は職員が同行し随時受診している。訪問診療時の情報提供と受診結果を「看護日誌」に記録している。他科については、主治医の紹介を受け家族同行で受診している。外部受診の結果は「介護記録」に記録している。訪問診療・外部受診の内容に応じて、「日誌」の連絡事項に記録し情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が2名おり、介護職員の相談や異変があった場合には医療機関との窓口になっています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の紹介で入院先を確保し、入院時には看護師が同行する。退院前には看護師が病院に訪問し情報を収集して、職員間で情報を共有するようにしています。	入院時は主治医の紹介を受け、職員が同行し、口頭説明と「介護サマリー」で情報提供している。主治医からも診療情報が提供されている。入院中は、主に管理者が医療連携室と連携し早期退院に向け支援している。退院前は、管理者が退院前カンファレンスに参加し、情報収集している。退院時には「看護サマリー」で情報提供を受け、退院後の支援に活かしている。入院中、退院時の経過は支援経過記録に記録し、「日誌」の連絡事項で情報共有している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合について説明している。重度化しそうな場合は早期に再度説明し、同意を得るようにしている。管理者が窓口になり家族と主治医、施設との話し合いの機会を設けています。	契約時に「重度化(入院)に係る対応の指針」を説明して指針に対して同意を得、緊急時対応についての意向確認も行っている。重度化を迎えた段階で、主治医・家族・事業所の三者で話し合いを行い、現状に即したサービスへの移行を支援する方針である。	

萌花甲子園

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、急変時の対応を研修予定に組み込み、年1回は研修して周知を図っています。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。生活水として井戸水を確保しています。	令和4年度は、4月に夜間想定、11月に昼間想定火災対応訓練を実施している。訓練には、当日出勤の職員と可能な利用者が参加し、利用者個々の状態により避難方法と避難場所を決め、実践的な訓練を行っている。報告書に訓練内容・結果・反省を記録し、参加できなかった職員は閲覧して周知を図っている。備蓄品は3階倉庫に保管し、生活用水は敷地内の井戸水を確保している。近隣の薬局に、協力を依頼している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パーソンセンタードケアを念頭に日常生活援助を行っており、年間研修予定にも組み込んでいる。個人情報の使用については同意書を得ています。	年間研修計画をもとに「プライバシー保護の取り組みについて」「認知症及び認知症ケア」研修を実施し、「グループ研究発表」のテーマにも取り入れ、利用者の尊厳・プライバシーを損ねない言葉かけ・対応について周知を図っている。気になる言葉かけや対応があれば、管理者が注意喚起や助言を行っている。「萌花だより」等への写真の掲載については、「個人情報利用同意書」に項目を設けて意向を確認している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者と会話の時間を取るよう心掛けており、本人のペースの合わせるようにしています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者と会話の時間を取るように心掛けており、本人のペースに合わせるようにしています。		

萌花甲子園

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択できる方には好きな服を選んで着て頂いている。職員が選択する場合は季節にあった服装で清潔なもの、サイズがあっている物を基準に選んでいます。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は事業所で用意しているが、食べやすいように刻んだり、嚥下が悪い入所者にはソフト食を用意するなどして食べやすいように提供している。行事食を企画し実施しています。	昼食は事業所で献立を立て、手作りの「日替わりランチ」を提供している。夕食は委託業者から届く主菜を温め、炊飯・汁物調理は事業所で行い提供している。ソフト食は業者に発注し、その他の食事形態には事業所に対応している。昼食・夕食の献立に、季節の食材や季節感のある献立への配慮や工夫がある。行事食については、年間行事予定表に計画し、行事担当者が企画して行事に応じた食事やおやつを提供している。誕生日には、事業所でデコレーションしたケーキでお祝いしている。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分摂取量をチェックし、少なければ摂取を促すようにしています。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が介助して口腔ケアを実施している。夜間は義歯を外して頂き、洗浄液につけている。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、職員が時間や状態を見ながら排泄誘導を行っている。尿意、便意がわからない入所者の方へも、出来る限りトイレで排泄が出来るように支援しています。	「排泄表」で利用者個々の排泄状況とパターンを把握している。日中・夜間ともにトイレでの排泄を基本とし、必要に応じて声かけ・誘導・介助等、自立支援を行っている。検討事項があれば、毎月の全体会議の中で利用者の状況を共有し、現状に即した介助方法・排泄用品の使用につなげている。アコーディオンカーテンの開閉・見守り時の待機場所等、プライバシーへの配慮に努めている。	

萌花甲子園

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを毎日提供し、水分摂取量をチェックするなどして出来るだけ下剤に頼らないようにしています。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に異常がなければ、週2回のペースで入浴している。拒否が強い場合には、時間や職員を代えて対応している。入浴はマンツーマンで行い、汚染があった場合はその都度入浴をしています。	新設された広く清潔感のある浴室・脱衣室で、快適に入浴を楽しめる環境である。浴槽での入浴を基本とし、自分のペースでゆっくり入浴できるよう支援し、体調やADLに応じてシャワー浴でも対応している。「入浴表」で週2回の入浴日を予定しているが、利用者個々の体調や気分に応じて柔軟に対応し、「入浴チェック表」で入浴状況を把握している。同性介助の希望や入浴拒否にも、個別の配慮で対応している。ゆず湯等、入浴をより楽しむ工夫も行っている。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各部屋に温湿度計を設置し、室温調整を行っている。掛け布団の調整や寝具の洗濯等も担当を決めて行っています。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけの薬剤師と、主治医、施設の看護師と密に情報交換を行っている。写真付き薬情報で職員への周知を図っています。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事担当者を決め、毎月イベントを行うが、コロナの影響で地域交流のイベントは出来ていない。塗り絵や数字合わせなど、入居者の状態に併せて支援している。好きな編み物を熱心にされる方もいます。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出が出来ていなかったが、この春から少しずつではあるが、散歩に出かけている。また外出イベントも予定しています。	コロナ禍で外出を休止していたが、今年度から、近隣への散歩、地域の花見会への参加、外出行事(サーカス見物)等、外出を徐々に再開している。また、家族との散歩・買い物・喫茶等も再開している。	

萌花甲子園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>居室にお金は置かず、本人が所持することもない。買い物に行く際は職員が同行し、施設で預かっているお金を本人に渡し、本人が支払う。コロナの影響で買い物へは行けていなかった為、実施していきたいです。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望される方には携帯電話を持って頂いています。持っていない方は事務所の電話を使用している。ダイヤルが出来ない方が望まれる時には職員が掛けたり、かかってきた電話を取り次いでいます。</p>		
52	(23)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室やトイレの前には大きな字や、絵で表示している。各部屋に違うのれんを掛けて目印にしている。季節ごとに壁飾りを行い、季節感を出す工夫をしています。</p>	<p>廊下・食堂のボードに職員手作りの季節の壁飾り(鯉のぼり・兜など)を行い、季節感が感じられる。キッチンから調理の音や匂いが感じられ、利用者もお茶の準備や洗濯物たたみ等に参加し、生活感を取り入れている。温湿度管理・換気・環境整備を行い、4Kテレビの設置、配席の工夫、座席の無圧マットの使用等、快適に過ごせるよう取り組んでいる。日課としてラジオ体操の時間を設け、長い廊下で歩行や足踏みを行いフレイル予防に努めている。午前・午後に、個別やグループでレクリエーションや趣味活動を行い、楽しく過ごせるよう支援している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂では席順を工夫し、気の合った入居者同士がお話できるよう努めている。また入居者同士がお部屋を行き来し過ごされています。</p>		

萌花甲子園

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、自宅より本人が使い慣れた家具を持参している。壁に作品を貼ったり、ラジオを聴かれている方もいます。	各居室にベッド・つり戸棚・たんす等が設置されている。椅子・ラジオ・家族の写真・趣味の物等、自宅から使い慣れた物や馴染みの物が持ち込まれ、自作の作品を飾る等、居心地よく過ごせる環境づくりを行っている。利用者の動線を考慮して、家具の位置や向きの配置を行っている。利用者担当職員を配置し、衣替えや筆筒の整理など、環境整備を支援している。居室の入り口に、色柄の異なる暖簾をかけ、部屋間違いの防止とプライバシーへの配慮を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	計画作成担当者がADL表を毎月更新して、職員が共有できるようにスタッフルームに設置し、その情報に沿ってケアを提供しています。		